

No.140
2019
1/26



はちおうじ

JR東労組
八王子地本
八王子地本
ホームページ
「東労組八王子」で検索



原因究明と対策のない日勤教育は懲罰である！

八地申第8号

懲罰的な乗務停止・日勤教育を直ちに中止し 全項目終了
責任追及ではなく原因究明が出来る職場風土を確立する緊急申し入れ

3. 懲罰的な日勤教育は、福知山線列車脱線事故の教訓から今後一切行わないこと。

- 対立！**
- (組合) 日勤教育をおこなう目的・内容を明確にして本人に伝えるべきだ。
 - (会社) きっかけはお客様の声である。お客様への向き合い方、サービスを根気よく教育してきた。
 - (組合) 教育期間や乗務復帰に向けてのスケジュールを事前に本人に伝えるべきである。
 - (会社) 乗務員としての技術、技能を補うために行うのであって、本人によって変わってくるので事前に期日は決められない。カリキュラムの全てを伝えるのは難しい。最初に車掌のあるべき姿は本人に伝えた。
 - (組合) 事実をしっかり掘り経過を踏まえるべきである、また乗客の暴力暴言には会社として対策を示すべきである。
 - (会社) 社員としてふさわしい教育を行い、社員の成長を目指した教育である。暴力には毅然と対応する。
 - (組合) 教育のなかでマイメッセージや昇進試験の懸念は今回の事象と関係ない。
 - (会社) 車掌の理想像でそういう話しはあったのかもしれないが、アドバイスしているだけである。
 - (組合) 教育の目的も伝えられず本人もいつまで続くのか到達点の見えない中、不安になる教育は行うべきではない。
 - (会社) 不安という声に対しては向き合っていく。

4. 事情聴取の際に防犯カメラの映像を用いて責任追及を行わないこと。

- (組合) 防犯カメラの映像で事件性のない事象に対し事実確認を行っているのか？
- (会社) 社員を守るために、当社の立場を明確にするため、事実を正しく把握する必要があり画像を使うこともある。
- (組合) 事件性がなくても使用するのか？これまでの労使議論でも確認してきている。
- (会社) 社員に対し聞き取りを目的に使った。責任追及としては使わない！
- (組合) 本人の見え方、カメラの見え方は違う。社員が見えてないという申告は信じないのか？故意に挟む社員はいない。
- (会社) 10両で40扉あればありえる、事実を確認するためである。
- (組合) 社員の主張とカメラからの目線の違いや、管理者の主張は入らないということか？
- (会社) 事実の確認だけである！決して責任追及では使わない！

5. 日勤教育を行っている組合員を直ちに乗務復帰させること。

- (組合) さまざまな職場で今現在も日勤教育が行われているが、教育の本質(目的)とスケジュールを示すべきだ。
- (会社) しっかりと、本人が納得いくような伝え方を行っていく。

会社も原因究明をしっかり行い、対策を打ち立てるべき！
懲罰的な日勤教育で安全は保たれないことは歴史が証明している。
会社の回答が現場でしっかり履行されているか全組合員で確認しよう。